

奈良国立文化財研究所要綱

I 事業概要

1 研究普及事業

公開講演会

- | | |
|--|---|
| (1) 1989年5月20日 第64回公開講演会
「平城京再現—研究成果と課題—」鈴木 嘉吉
「平城京発掘30年—その光と影—」青山 茂 | (5) 1989年9月2日 平城宮跡第204次
(平城京左京二条二坊五坪) 高瀬 要一
渡邊 晃宏 |
| (2) 1989年11月18日 第65回公開講演会
「犬、猿、馬—古代人の生活と動物—」
松井 章
「馬をめぐる古代のまつり」 金子 裕之 | (6) 1989年9月16日 平城宮跡第203次
(朝堂院東三堂) 千田 剛道 |
| | (7) 1989年9月30日 奥山久米寺金堂跡
岩永 省三 |
| | (8) 1989年11月18日 平城宮跡第209次
(西隆寺) 島田 敏男 |
| | (9) 1989年12月2日 山田寺跡第7次川越 俊一 |
| | (10) 1989年12月16日 平城宮跡第206次
(兵部省) 村上 隆 |
| | (11) 1990年3月17日 平城宮跡第205・206次
(兵部省) 松本 修自 |

現地説明会

- | | |
|--|---|
| (1) 1989年4月15日 頭塔 巽 淳一郎 | (5) 1989年9月2日 平城宮跡第204次
(平城京左京二条二坊五坪) 高瀬 要一
渡邊 晃宏 |
| (2) 1989年5月6日 平城宮跡第198次—B
(平城京左京二条二坊五坪) 小池 伸彦
森 公章 | (6) 1989年9月16日 平城宮跡第203次
(朝堂院東三堂) 千田 剛道 |
| (3) 1989年7月1日 平城宮跡第202次—5次
(平城京左京三条二坊六坪) 田辺 征夫 | (7) 1989年9月30日 奥山久米寺金堂跡
岩永 省三 |
| (4) 1989年8月19日 薬師寺東面回廊
井上 和人 | (8) 1989年11月18日 平城宮跡第209次
(西隆寺) 島田 敏男 |
| | (9) 1989年12月2日 山田寺跡第7次川越 俊一 |
| | (10) 1989年12月16日 平城宮跡第206次
(兵部省) 村上 隆 |
| | (11) 1990年3月17日 平城宮跡第205・206次
(兵部省) 松本 修自 |

平城宮跡資料館・遺構展示館

見学者数

区 分	資料館	遺構展示館	計
1989年	75,352	84,183	159,535
累 計	1,033,312	1,349,090	2,382,402

資料館は1970年度、遺構展示館は1963年度以降の累計

2 1989年文部省科学研究費補助金による研究

種 別	研 究 課 題	研究代表者	交付額
特別推進研究(2)	古年輪変動データの分析による考古歴史研究方法の確立	田 中 琢	3,000千円
重点領域研究(1)	東南アジア考古学の基本資料の収集及びデータベース作成のための整理	花 谷 浩	1,500
重点領域研究(2)	北ユーラシア、アメリカ大陸における家犬の伝播とその系統について	松 井 章	1,200
総合研究(A)	原始古代の環境復原に関する新方法の開発	佐 原 真	13,800
一般研究(A)	データベースの開発による近世社寺建築研究の総括	松 本 修 自	5,000
一般研究(B)	古墳から出土する青銅遺物に見られるブロンズ病の成因と劣化防止に関する研究	肥 塚 隆 保	1,000
一般研究(C)	条坊、条里研究史に関する資料収集とその研究—北浦定政を中心として—	岩 本 次 郎	300
〃	西日本出土の縄文—古墳時代木器の集成的研究—	上 原 真 人	600
〃	「型」を用いた考古遺物に関する基礎的研究	大 脇 潔	500
〃	平城宮・京出土須恵器の分類と産地同定	巽 淳一郎	1,000
〃	石造文化財における経年変化の定量的解析に関する研究	内 田 昭 人	1,900

奨励研究(A)	弥生時代祭祀用具の編年的研究	岩永省三	800
々	獣帯鏡の研究—その編年と意義—	立木修	800
々	漢代までの中国における高床式建築の研究—考古発掘資料の集成及びその民族誌—	浅川滋男	900
々	浄土庭園をとりまく環境構成に関する研究	本中真	900
々	古代鍍金技術の材料科学的研究	村上隆	700
試験研究(1)	地名データベースの作成と利用法の確立	木全敬蔵	2,400
々	コンピュータグラフィックによる埋蔵文化財情報管理システムの開発	工楽善通	17,500
々	航空写真情報データベース構築におけるデータ入力法の開発研究	伊東太作	6,300
研究成果公開促進費 (データベース)	埋蔵文化財文献情報データベース	岩本次郎	6,930
計	20件		67,030

3 飛鳥資料館の運営 展示

第一展示室 常設展示

第二展示室

春期特別展示「仏舍利埋納」

1989.4.5～5.28 54日間

秋期特別展示「法隆寺金堂壁画 飛天」

1989.10.4～11.23 51日間

特別講演会

1989年4月22日

「中国の舍利容器—法門寺の出土品を中心として—」 坪井 清足

1989年5月9日

「インドのストウーパと舍利」 桑山 正進

1989年10月28日

「法隆寺金堂壁画の飛天」 濱田 隆

普及

インフォメーションルームにおいて観覧者の質問に応じている。

また、特別展示の図録として「仏舍利埋納」及び「法隆寺金堂壁画飛天」を刊行した。

入館者数(1989.4.1～1990.3.31 開館日数315日)

区分	個人観覧	団体観覧	有料	無料	合計
一般	68,201	9,517			
高・大生	11,221	22,324	178,869	21,847	200,716
小・中生	11,167	56,439			
計	90,589	88,280			

陳列品購入

立体スライドカラー写真

4 埋蔵文化財センターの研修・指導

研修 埋蔵文化財の保護に資することを目的として主に地方公共団体の埋蔵文化財保護行政担当者を対象に次の研修を実施した。

- (1) 平成元年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修(土師器・須恵器調査課程)
1989年5月9日～5月17日(参加者29名)
- (2) 平成元年度埋蔵文化財発掘技術者特別研修(埋蔵文化財基礎課程)
1989年5月24日～6月1日(参加者39名)
- (3) 平成元年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修(保存科学課程)
1989年6月8日～6月28日(参加者20名)
- (4) 平成元年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修(遺跡探査課程)
1989年7月5日～7月14日(参加者7名)
- (5) 平成元年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修(遺跡測量課程)

- 1989年9月5日～10月4日(参加者14名)
- (6) 平成元年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修
(遺跡保存整備課程)
1989年10月12日～11月7日(参加者14名)
- (7) 平成元年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修
(遺跡環境課程)
1989年11月14日～11月30日(参加者22名)
- (8) 平成元年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修
(埋蔵文化財情報課程)
1989年12月7日～12月21日(参加者29名)
- (9) 平成元年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修
(縄文土器調査課程)
1990年1月10日～1月23日(参加者22名)
- (10) 平成元年度埋蔵文化財発掘技術者特別研修
(城館遺跡調査課程)
1990年1月30日～2月2日(参加者39名)
- (11) 平成元年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修
(弥生土器調査課程)
1990年2月14日～2月23日(参加者23名)
- (12) 平成元年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修
(生物環境課程)
1990年3月6日～3月23日(参加者15名)

発掘調査・保存・整備・探査指導

(北海道)開陽丸, 手宮洞窟, 静川遺跡, (青森県)根城跡, (岩手県)毛越寺庭園, 平泉遺跡群, 志波城跡, (宮城県)多賀城跡, 日の出山瓦窯跡群, (秋田県)大湯環状列石, 弘田柵跡, (山形県)西田遺跡, (福島県)薬師寺石仏, 慧日寺跡, 大戸古窯跡群, (栃木県)足利学校跡, 下野国分寺跡, 下野国府跡, (群馬県)宇通遺跡, (千葉県)王賜銘鉄剣, (富山県)じょうべのま遺跡, (石川県)能登国分寺(福井県)二子山古墳, 野々宮廃寺, 一乗谷朝倉氏遺跡, (山梨県)宮ノ前遺跡, (長野県)森將軍塚古墳, 須恵器・製炭窯跡, 高梨館跡, (岐阜県)塚原遺跡, 東氏館跡庭園, 苗木城跡, 加納城跡, (静岡県)勝間田城跡, 久野城跡, 片山廃寺, 古新田遺跡, 大須賀城跡, 滝峯才四郎谷遺跡, (愛知県)朝日遺跡出土銅鐸, (三重県)伊賀国府推定地, 西が谷古窯跡推定地, 斎宮跡, 縄生廃寺, 旧崇広堂, (滋賀県)円城寺善法院庭園, 雪野山古墳, 南滋賀廃寺, 崇福寺跡, 宮山二号墳, 安土城跡, 孤篷寺庭園, 安養寺庭園, (京都府)千代川遺跡, 大覚寺大沢池, 恭仁京跡, 蛭子山, 作山古墳, 平等院庭園, コクバラノ遺跡, 遠所遺

研 修 員 一 覧 表

氏 名	所 属	受入れ期間	受入れ部局	研究・研修内容
伊 藤 幸 司	勸大阪市文化財協会調査課	1989.4.1～1990.3.31 (毎水曜日)	埋蔵文化財センター	遺物保存処理研修
佐 賀 和 美	同 上	同 上	同 上	同 上
福 田 哲 也	三重県教委県外研修生 (松坂市立鎌田中学教諭)	1989.7.1～1990.8.31	平城宮跡発掘調査部	埋蔵文化財の発掘調査及び 保存研修
三 枝 義 久	同 上 (三重県立桑名西高校教諭)	同 上	同 上	同 上
バメラ・バン デ イバー	アメリカ・スミソニアン研究機構保 存科学研究員	1989.7.12～1989.8.27	埋蔵文化財センター	土器製作技法研究
山 岡 裕	三重県教委県外研修生 (名張市立長田小学校教諭)	1989.9.1～1989.9.30	平城宮跡発掘調査部	埋蔵文化財の発掘調査及び 保存研修
東 成 志	同 上 (海山町立三船中学校教諭)	同 上	藤原宮跡発掘調査部	同 上
荒 木 昌 俊	同 上 (楠町立楠小学校教諭)	同 上	藤原宮跡発掘調査部	同 上
渡 辺 尚 登	三重県教委県外研修生 (三重県立四日市西高校教諭)	1989.10.1～1989.10.31	平城宮跡発掘調査部	同 上
ワニー・ラハ ル ディ・ワヒ ディ	インドネシア大学, 文学部講師	1989.10.9～1989.10.16 1989.11.3～1989.12.10	埋蔵文化財センター	考古学方法論研究
任 式 楠	中国社会科学院考古研究所副研究員	1989.9.8～1990.12.3	同 上	弥生文化研究
ソロビョフ・アレ キ サ ン ダー・イワノ ビ ツ チ	ソ連科学アカデミーシベリヤ支部・ 歴史, 言語, 哲学研究所上級研究員	1989.11.1～1990.2.12	同 上	遺物保存処理研修
サガラエフ・ア ン ド レ イ・マルコ ビ ツ チ	同 上	1990.3.4～1990.3.16	同 上	同 上

跡群、物集女車塚古墳、篠遺跡、長岡京跡、(大阪府)津堂城山古墳、海会寺跡、峯ヶ塚古墳、(兵庫県)庄園遺跡、西安田長野遺跡、桜ヶ丘銅鐸銅戈、大山城跡、赤穂城跡、篠山城跡、真南条古墳、播磨国分寺跡、中道子山城跡、人塚古墳、大部荘園、小夫丸遺跡、長尾庵寺、神子ヶ谷古墳群、戎町遺跡、野村構居跡、但馬国分寺跡、祢布ヶ遺跡、川原遺跡、砂入遺跡、(奈良県)ナガレ山古墳、(和歌山県)田屋遺跡、川辺遺跡、(鳥取県)馬場遺跡、伯耆国庁跡、梶山古墳、(鳥根県)荒神谷遺跡、清水寺本堂、(岡山県)美作国府跡、(広島県)三ツ城古墳、草戸千軒町遺跡、(山口県)朝田墳墓群、周防国府推定地、大内氏遺跡、萩城跡、延行糸里遺跡、綾羅木郷遺跡、長登銅山跡製練跡、周防国衙跡、串崎城跡、(香川県)王墓山古墳、讃岐国分寺跡、川上古墳、弘福寺領讃岐国山田郡田園、紫雲山遺跡、長尾寺経幢、(愛媛県)来住庵寺、古照遺跡、(福岡県)王塚古墳、鴻臚館跡、板付遺跡、能古島江戸期古窯跡、両岡様前方後円墳、野方遺跡、筑後国府跡、(佐賀県)吉野ヶ里遺跡、名護屋城跡、陣跡、馬郡・竹原遺跡群、大黒町遺跡、(長崎県)土井の浦窯跡、石田城跡、(熊本県)古代鞠智城、網田焼窯跡、(大分県)大分元町石仏、普光寺磨崖仏、川部・高森古墳群、(宮崎県)蓮ヶ池横穴群、国衙・郡衙・古寺跡分布調査、(鹿児島県)指宿橋牟礼川遺跡包含地、(沖縄県)喜友名東原ヌバタキ遺跡、仲原遺跡、宇堅貝塚、今帰仁城跡、糸数城跡、首里城跡、フルスト原遺跡、

埋蔵文化財ニュース刊行

第67号 1987年度刊行埋蔵文化財発掘調査報告に関する情報調査

第68号 保存科学関係文献目録—遺物・遺構編

5 その他

委員会等

第16回飛鳥資料館運営協議会

1989年5月23日 於 飛鳥資料館

平城・飛鳥藤原宮跡調査整備指導委員会

1989年6月15・16日 於 平城宮跡資料館講堂

外国出張

佐原 真 環太平洋先史学会議並びに文化庁とスミソニアン研究機構との共同研究のため、アメリカ合衆国へ出張

1989年8月1日～1989年8月23日

田中 琢 ソ連アルタイ地方所在古墳調査に関するアカデミーシベリア支部歴史、言語、哲学研究所への助言のため、ソビエト共和国へ出張

1989年8月18日～1989年9月1日

田中 琢 韓国国立中央博物館による発掘調査視察及び意見交換のため、大韓民国へ出張

1989年10月23日～1989年10月29日

井上和人 タイ東北地方における先史時代生産遺跡の発掘調査のため、タイ国へ出張

1989年11月16日～1990年1月26日

沢田正昭 東アジア青銅器の保存についての共同研究のため、アメリカ合衆国へ出張

1989年12月4日～1989年12月17日

上野邦一 ラオス国チャンプサック市にあるワット・ブー遺跡の発掘調査と遺跡保存指導のため、ラオス国及びタイ国へ出張

1989年12月4日～1990年2月10日

黒崎 直 中南米における古代都市・宮殿・神殿遺跡の比較研究のため、メキシコ国、ペルー国及びブラジル国へ出張

1990年1月15日～1990年3月14日

金子裕之 スミソニアン研究機構との共同研究—縄文土器の技法・組成の研究—のため、アメリカ合衆国へ出張

1990年2月18日～1990年3月3日

村上 隆 スミソニアン研究機構との共同研究—青銅器の材質、古代鍍金技法の解明の研究—のため、アメリカ合衆国へ出張

1990年2月18日～1990年3月3日

牛川喜幸 インド仏教遺跡の保存整備に関する基礎的調査研究のため、インド国へ出張

1990年3月8日～1990年3月17日

松沢亜生 ヨーロッパ・アメリカ旧石器文化と日本旧石器文化の比較研究のため、イギリス、スウェーデン、デンマーク、フランス、エジプト及びケニアの各国へ出張

1990年3月28日～1990年6月27日

協力事業等

文化庁では1971年度から特別史跡藤原宮跡の国有化を進めており、1972年度から当研究所が文化庁から支出委任を受けて買収事務を担当しているが、1989年度の状況は下記のとおりである。

区分	面積	金額
1989年度	4,884.07	235,496,776
国有地合計	326,321.51	6,511,518,211

Ⅱ 図書及び資料

図書 114,374冊 (1990.3.31)

区分	種別	購入	寄贈	計
1989年度	和漢書	1,574	4,362	5,936
	洋書	114	317	431
累計	和漢書	46,343	61,233	107,576
	洋書	5,482	1,316	6,789

写真 401,609点 (1989年度末)

Ⅲ 研究成果刊行物

1 1989年度刊行物

名	称
史科	第32冊 山内清男考古資料2
図録	第21冊 仏舍利埋納
	第22冊 法隆寺金堂壁画飛天
報告書等	1989年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報
	飛鳥・藤原宮発掘調査概報20
	平城宮発掘調査出土木簡概報21

2 前年度までの刊行物

奈良国立文化財研究所学報

年度	名	称
1954	第1冊	仏師運慶の研究
	第2冊	修学院離宮の復原的研究
1955	第3冊	文化史論叢
1956	第4冊	奈良時代僧房の研究
1957	第5冊	飛鳥寺発掘調査報告
1958	第6冊	中世庭園文化史
	第7冊	興福寺食堂発掘調査報告
1959	第8冊	文化史論叢Ⅱ
	第9冊	川原寺発掘調査報告
1960	第10冊	平城宮跡第一次・伝飛鳥板蓋宮跡発掘調査報告

1961	第11冊	院の御所と御堂—院家建築の研究—
1962	第12冊	巧匠安阿弥陀仏快慶
	第13冊	寝殿造系庭園の立地的考察
	第14冊	唐招提寺蔵「レース」と「金亀舍利塔」に関する研究
	第15冊	平城宮発掘調査報告Ⅱ 官衙地域の調査
1963	第16冊	平城宮発掘調査報告Ⅲ 内裏地域の調査
1965	第17冊	平城宮発掘調査報告Ⅳ 官衙地域の調査
	第18冊	小堀遠州の作事
1967	第19冊	藤原氏の氏寺とその院家
1969	第20冊	名物裂の成立
1971	第21冊	研究論集Ⅰ
1973	第22冊	研究論集Ⅱ
1974	第23冊	平城宮発掘調査報告Ⅵ 平城京左京一条三坊の調査
	第24冊	高山一町並調査報告一
1975	第25冊	平城京左京三条二坊
	第26冊	平城宮発掘調査報告Ⅶ
	第27冊	飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅰ
	第28冊	研究論集Ⅲ
	第29冊	木曾奈良井一町並調査報告一
1976	第30冊	五条一町並調査の記録一
1977	第31冊	飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅱ
	第32冊	研究論集Ⅳ
	第33冊	イタリア中部の山岳集落における民家調査報告
	第34冊	平城宮発掘調査報告Ⅸ
1978	第35冊	研究論集Ⅴ
	第36冊	平城宮整備調査報告Ⅰ
1979	第37冊	飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅲ
	第38冊	研究論集Ⅵ
1980	第39冊	平城宮発掘調査報告Ⅹ
1981	第40冊	平城宮発掘調査報告Ⅺ
1984	第41冊	研究論集Ⅶ
	第42冊	平城宮発掘調査報告Ⅻ
	第43冊	日本における近世民家(農家)の系統的発展
1985	第44冊	平城京左京三条二坊六坪発掘調査報告
1986	第45冊	薬師寺発掘調査報告
1988	第46冊	平城京右京八条一坊十三・十四坪発掘調査報告書
	1988	第47冊

奈良国立文化財研究所史料

年度	名 称
1954	第1冊 南無阿弥陀仏作善集(複製)
1955	第2冊 西大寺叡尊伝記集成
1963	第3冊 仁和寺史料 寺誌編1
1964	第4冊 俊乘坊重源史料集成
1966	第5冊 平城宮木簡1 図版
1967	第6冊 仁和寺史料 寺誌編2
1969	第5冊 平城宮木簡1 解説(別冊)
1970	第7冊 唐招提寺史料1
1974	第8冊 平城宮木簡2 図版・解説
	第9冊 日本美術院彫刻等修理記録Ⅰ
1975	第10冊 日本美術院彫刻等修理記録Ⅱ
1976	第11冊 日本美術院彫刻等修理記録Ⅲ
1977	第12冊 藤原宮木簡1 図版・解説
	第13冊 日本美術院彫刻等修理記録Ⅳ
1978	第14冊 日本美術院彫刻等修理記録Ⅴ
	第15冊 東大寺文書目録第1巻
1979	第16冊 日本美術院彫刻等修理記録Ⅵ
	第17冊 平城宮木簡3 図版・解説
	第18冊 藤原宮木簡2 図版・解説
	第19冊 東大寺文書目録第2巻
1980	第20冊 日本美術院彫刻等修理記録Ⅶ
	第21冊 東大寺文書目録第3巻
1981	第22冊 七大寺巡礼私記
	第23冊 東大寺文書目録第4巻
1982	第24冊 東大寺文書目録第5巻
	第25冊 平城宮出土墨書土器集成Ⅰ
1983	第26冊 東大寺文書目録第6巻
1984	第27冊 木器集成図録-近畿古代編-
1985	第28冊 平城宮木簡4 図版・解説
	第29冊 興福寺典籍文書目録第1巻
1988	第30冊 山内清男考古資料1 真福寺貝塚資料他
	第31冊 平城宮出土墨書土器集成Ⅱ

奈良国立文化財研究所基準資料

年度	名 称
1973	第1冊 瓦編1 解説
1974	第2冊 瓦編2 解説
1975	第3冊 瓦編3
1976	第4冊 瓦編4
	第5冊 瓦編5
1978	第6冊 瓦編6
1979	第7冊 瓦編7
1980	第8冊 瓦編8
1983	第9冊 瓦編9

飛鳥資料館図録

年度	名 称
1976	第1冊 飛鳥白鳳の在銘金銅仏
	第2冊 飛鳥白鳳の在銘金銅仏 銘文篇
1977	第3冊 日本古代の墓誌
1978	第4冊 日本古代の墓誌 銘文篇
	第5冊 古代の誕生仏
1979	第6冊 飛鳥時代の古墳-高松塚とその周辺-
1980	第7冊 日本古代の鴟尾
1981	第8冊 山田寺展
1982	第9冊 高松塚拾年
1983	第10冊 渡来人の寺-松隈寺と坂田寺-
	第11冊 飛鳥の水時計
	第12冊 小建築の世界-埴輪から瓦塔まで-
1984	第13冊 藤原宮-半世紀にわたる調査と研究-
1985	第14冊 日本と韓国の塑像
	第15冊 飛鳥寺
1986	第16冊 飛鳥の石造物
1987	第17冊 萬葉乃衣食住
	第18冊 壬申の乱
1988	第19冊 古墳を科学する
	第20冊 聖徳太子の世界

Ⅳ 定員

区 分	指定職	行政職(一)	行政職(二)	研究職	計
1989年度	1	22	3	62	88
1990年度	1	22	3	60	86

Ⅴ 予 算 (1989年度)

人 件 費	583,219千円
運 営 費	880,050
事 業 管 理	5,371
一 般 会 計	56,911
特 別 研 究	23,487
発 掘 調 査	478,184
宮 跡 整 備 管 理	64,283
飛鳥資料館運営	47,653
埋蔵文化財センター運営	46,389
新庁舎維持管理等経費	28,024
飛鳥藤原宮跡発掘調査部 施設新営に伴う経費	129,748

施設費	338,450
施設整備費	0
平城宮跡等整備費	324,553
各所修繕費	13,879
計	1,801,719

Ⅵ 施設

土地

奈良国立文化財研究所所管	47,890m ²
本庁舎	8,860m ²
飛鳥藤原宮跡発掘調査部	20,515m ²
飛鳥資料館	17,092m ²
郡山宿舎(一)	80m ²
飛鳥資料館宿舎	1,343m ²
文化庁所管(関係分)	1,412,978m ²
平城宮跡地区	1,081,616m ²
藤原宮跡地区	326,321m ²
飛鳥稲淵宮殿跡地区	5,041m ²

建物

1. 庁舎 27,844m²

区分	本庁舎	平城	藤原	飛鳥資料館	藤原宮跡	計
	m ²	m ²	m ²	m ²	m ²	m ²
事務室	568	122	197	90		977
研究・整理室	1,419	1,368	1,149	77		4,013
資料・図書室	1,021		383	36		1,440
会議室	338		129	42		509
講堂		384	210	89		683
展示室		845	254	648		1,747
写真室	79	256	149	64		548
遺構展示棟		1,408				1,408
車庫	84	968	352	94		1,498
倉庫・収蔵庫	123	4,772	2,041	480		7,416
研修棟	1,416					1,416
その他	1,673	1,856	1,562	1,062	36	6,189
計	6,721	11,979	6,426	2,682	36	27,844

2. 宿舎等

重要文化財旧米谷家住宅	591m ²
郡山宿舎(一)、(二)	213m ²
飛鳥資料館宿舎	153m ²
	225m ²

主要工事

(1) 平城宮跡地等整備費 千円

平城宮跡宮内省西南殿復原工事	124,630
平城宮跡整備棟新営工事	80,958
平城宮跡環境整備平成元年度第Ⅰ期工事	95,584
平城宮跡朱雀門周辺松移植平成元年度工事	6,283
藤原宮跡環境整備平成元年度工事	4,893

(2) 官庁営繕費

飛鳥資料館機械特別修繕工事 35,226

(3) その他(各所修繕・庁費)

平城宮跡第1・2収蔵庫棟消火栓設備工事	4,275
研修寄宿棟衛生施設改修工事	6,901
平城宮跡第3収蔵庫空気調和設備工事	2,266

Ⅶ 人事移動 (1989.4.1~1990.3.31)

4月1日 庶務部庶務課長に昇任 中川 良和
飛鳥資料館庶務室長に昇任

柿本 治

庶務部会計課に配置換 松本 正典

飛鳥藤原宮跡発掘調査部考古第一調査室に配置換 花谷 浩

埋蔵文化財センター教務室に転任

新井 伸一

文部技官(平城宮跡発掘調査部考古第三調査室)に採用 小澤 毅

文部技官(平城宮跡発掘調査部史料調査室)に採用 渡邊 晃宏

研究補佐員(飛鳥藤原宮跡発掘調査部)に採用 南 時夫

研究補佐員(飛鳥藤原宮跡発掘調査部)に採用 西川 寿勝

国立極地研究所事業課長に転任

赤羽 鉦一

奈良工業高等専門学校庶務課長に転任

織田 健蔵

文化庁文化財保護部美術工芸課主任文化財調査官に配置換 加藤 優

文化庁文化財保護部建造物課文化財調査官に転任 清水 真一

5月1日 庶務部会計課用度係長に昇任

小林 雅文

庶務部会計課経理係経理主任に配置換

岡本 安司

庶務部会計課専門職員に転任

新井 耕治

奈良国立博物館管理課会計係長に転任

西村 博美
 6月1日 庶務部会計課経理係長に昇任
 新湯 淳史
 大阪大学レーザー核融合研究センター
 業務第二掛長に転任 黒坂 雅基
 7月1日 平城宮跡発掘調査部主任研究官に昇任
 井上 和人
 飛鳥藤原宮跡発掘調査部主任研究官に
 昇任 山岸 常人
 飛鳥藤原宮跡発掘調査部主任研究官に
 昇任 立木 修
 8月1日 平城宮跡発掘調査部専門職員に昇任
 井上 直夫
 10月1日 庶務部庶務課課長補佐に昇任
 石塚 幸男
 京都大学庶務部人事課課長補佐に転任
 石田 和樹
 辞職 植田よし子
 10月16日 庶務部会計課課長補佐に昇任
 津田富士夫
 京都大学医学部付属病院医事課課長補
 佐に転任 益田 朗
 11月1日 事務補佐員（庶務部会計課）に採用
 吉田 和子
 12月1日 文化庁文化財保護部記念物課主任文化
 財調査官に配置換 田中 哲雄
 1月1日 平城宮跡発掘調査部考古第一調査室専
 門員に昇任 佃 幹雄
 文部技官（平城宮跡発掘調査部考古第
 一調査室専門職員）に採用牛嶋 茂
 辞職 神田 高士
 2月28日 辞職 岩本 次郎
 3月1日 埋蔵文化財センター情報資料室長に昇
 任 伊東 太作
 3月31日 辞職 小林 謙一
 辞職 河村裕一郎

Ⅷ 組織規程

文部省組織令〈抜粋〉

昭和59年6月28日 政令第227号

第2章 文化庁

第3節 施設等機関

（施設等機関）

第108条 文化庁長官の所轄の下に、文化庁に国

立国語研究所を置く。

2 前項に定めるもののほか、文化庁に次の施設等機関を置く。

（中略）

国立文化財研究所

（国立文化財研究所）

第114条 国立文化財研究所は、文化財に関する調査研究、資料の作成及びその公表を行う機関とする。

2 国立文化財研究所には、支所を置くことができる。

3 国立文化財研究所及びその支所の名称、位置及び内部組織は、文部省令で定める。

文部省設置法施行規則〈抜粋〉

昭和28年1月13日 文部省令第2号

第5章 文化庁の施設等機関

第4節 国立文化財研究所

第1款 名称及び位置

（名称及び位置）

第116条の9 国立文化財研究所の名称及び位置は、次の表に掲げるとおりとする。

名 称	位 置
東京国立文化財研究所	東京都台東区
奈良国立文化財研究所	奈良県奈良市

第2款 奈良国立文化財研究所

（所長）

第123条 奈良国立文化財研究所に、所長を置く。

2 所長は、所務を掌理する。

（内部組織）

第124条 奈良国立文化財研究所に、庶務部、建造物研究室及び歴史研究室並びに平城宮跡発掘調査部及び飛鳥藤原宮跡発掘調査部を置く。

2 前項に定めるもののほか、奈良国立文化財研究所に、飛鳥資料館及び埋蔵文化財センターを置く。

（庶務部の分課及び事務）

第125条 庶務部に、次の二課を置く。

一 庶務課

二 会計課

2 庶務課においては、次の事務をつかさどる。

一 職員の人事に関する事務を処理すること。

二 職員の福利厚生に関する事務を処理するこ

と。

- 三 公文書類の接受及び公印の管守その他庶務に関すること。
 - 四 この研究所の所掌事務に関し、連絡調整すること。
 - 五 この研究所の所掌に係る遺構及び遺物の保全のための警備に関すること。
 - 六 前各号に掲げるもののほか、他の所掌に属しない事務を処理すること。
- 3 会計課においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 予算に関する事務を処理すること。
 - 二 経費及び収入の決算その他会計に関する事務を処理すること。
 - 三 行政財産及び物品の管理に関する事務を処理すること。
 - 四 庁舎及び設備の維持、管理に関する事務を処理すること。
 - 五 庁内の取締りに関すること。

第126条 削除

(建造物研究室等の事務)

第127条 建造物研究室においては、建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究を行い、並びにその結果の公表を行う。

- 2 歴史研究室においては、考古及び史跡並びに歴史資料に関する調査研究を行い、並びにその結果の公表を行う。
(平城宮跡発掘調査部の六室及び事務)

第128条 平城宮跡発掘調査部に、考古第一調査室、考古第二調査室、考古第三調査室、遺構調査室、計測修景調査室及び史料調査室を置く。

- 2 前項の各室においては、平城宮跡に関し、次項から第6項までに定める事務を処理するほか、その発掘を行う。
- 3 考古第一調査室、考古第二調査室及び考古第三調査室においては、別に定めるところにより分担して、遺物(木簡を除く。)の保存整理及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。
- 4 遺構調査室においては、遺構の保存整理及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。
- 5 計測修景調査室においては、遺構の計測及び修景並びにこれらに関する調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。
- 6 史料調査室においては、木簡の保存整理及び調査研究、史料の収集及び調査研究並びにこれ

らの結果の公表を行う。

(飛鳥藤原宮跡発掘調査部の四室及び事務)

第129条 飛鳥藤原宮跡発掘調査部に、考古第一調査室、考古第二調査室、遺構調査室及び史料調査室を置く。

- 2 前項の各室においては、藤原宮跡及び飛鳥地域における宮跡その他の遺跡に関し、次項から第5項までに定める事務を処理するほか、その発掘を行う。
- 3 考古第一調査室及び考古第二調査室においては、別に定めるところにより分担して、遺物(木簡を除く。)の保存整理及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。
- 4 遺構調査室においては、遺構の保存整理及び調査研究、遺構の計測及び修景並びにこれらに関する調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。
- 5 史料調査室においては、木簡の保存整理及び調査研究、史料の収集及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。

(飛鳥資料館)

第130条 飛鳥資料館においては、飛鳥地域の歴史的意義及び文化財に関し、国民の理解を深めるため、この地域に関する考古資料、歴史資料その他の資料を収集し、保管して公衆の観覧に供し、あわせてこれらに関連する調査研究及び事業を行う。

(飛鳥資料館の館長)

第131条 飛鳥資料館に、館長を置く。

- 2 館長は、館務を掌理する。
(飛鳥資料館の二室及び事務)

第132条 飛鳥資料館に、庶務室及び学芸室を置く。

- 2 庶務室においては、飛鳥資料館の庶務、会計等に関する事務を処理する。
- 3 学芸室においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 飛鳥地域に関する考古資料、歴史資料、建造物、絵画、彫刻、典籍、古文書その他の資料の収集、保管、展示、模写、模造、写真の作成、調査研究及び解説を行うこと。
 - 二 飛鳥地域に関する図書、写真その他の資料の収集、整理、保管、展示、閲覧及び調査研究を行うこと。
 - 三 飛鳥資料館の事業に関する出版物の編集及

び刊行並びに普及宣伝を行うこと。

(埋蔵文化財センター)

第133条 埋蔵文化財センターにおいては、次の事務をつかさどる。

一 埋蔵文化財に関し、調査研究及びその結果の公表を行うこと。

二 埋蔵文化財の調査及び保存整理に関し、地方公共団体の埋蔵文化財調査関係職員その他の関係者に対して、専門的、技術的な研修を行うこと。

三 埋蔵文化財の調査及び保存整理に関し、地方公共団体の機関その他関係の機関及び団体等の求めに応じ、専門的、技術的な指導及び助言を行うこと。

四 埋蔵文化財に関する情報資料の作成、収集、整理、保管及び調査研究を行い、並びに地方公共団体の機関その他関係の機関及び団体等の求めに応じ、その利用に供すること。

(埋蔵文化財センターの長)

第134条 埋蔵文化財センターに長を置く。

2 前項の長は、埋蔵文化財センターの事務を掌理する。

(埋蔵文化財センターの内部組織)

第135条 埋蔵文化財センターに、教務室、研究指導部及び情報資料室を置く。

(教務室の事務)

第136条 教務室においては、研修の実施に関する事務を処理するほか、埋蔵文化財センターの庶務に関する事務をつかさどる。

(研究指導部の六室及び事務)

第137条 研究指導部に、考古計画研究室、集落遺跡研究室、発掘技術研究室、遺物処理研究室、測量研究室及び保存工学研究室を置く。

2 考古計画研究室においては、第133条第1号から第3号までに掲げる事務(他の室の所掌に属するものを除く。)をつかさどる。

3 集落遺跡研究室においては、集落遺跡に関し、第133条第1号から第3号までに掲げる事務(発掘技術研究室、遺物処理研究室、測量研究室及び保存工学研究室の所掌に属するものを除く。)をつかさどる。

4 発掘技術研究室においては、遺跡の発掘技術に関し、第133条第1号から第3号までに掲げる事務をつかさどる。

5 遺物処理研究室においては、遺物の処理に関し、第133条第1号から第3号までに掲げる事務をつかさどる。

6 測量研究室においては、埋蔵文化財の測量に関し、第133条第1号から第3号までに掲げる事務をつかさどる。

7 保存工学研究室においては、遺跡の保存整備に関し、第133条第1号から第3号までに掲げる事務をつかさどる。

(情報資料室の事務)

第138条 情報資料室においては、第133条第4号に掲げる事務をつかさどる。

(客員研究員)

第139条 奈良国立文化財研究所に客員研究員を置くことができる。

2 客員研究員は、所長の命を受け、奈良国立文化財研究所において行う調査研究に参画する。

3 客員研究員は、非常勤とする。

改正 昭和43年6月15日 文部省令第20号

昭和45年4月17日 文部省令第11号

昭和48年4月12日 文部省令第6号

昭和49年4月11日 文部省令第10号

昭和50年4月2日 文部省令第13号

昭和51年5月10日 文部省令第16号

昭和52年4月18日 文部省令第10号

昭和53年4月5日 文部省令第19号

昭和53年9月9日 文部省令第33号

昭和55年4月5日 文部省令第14号

昭和55年6月25日 文部省令第23号

昭和58年10月1日 文部省令第25号

昭和59年6月30日 文部省令第37号

昭和63年4月8日 文部省令第12号

職員 (1990年7月1日現在)

所属	氏名	官職	担当	
	鈴木 嘉吉	文部技官 所長	長	
庶務課	小菅 康男	文部事務官 部長	長	
	中川 良和	文部事務官 課長	長	
	石塚 幸男	文部事務官 課長 補佐	長	
	西田 健三	文部事務官 専門 職務係	長	
	大槻 宏	文部事務官 専門 職務係	長	
	石田 義則	文部事務官 警務 員	長	
	森田 光治	文部事務官 警務 員	長	
	岡田 博无	文部事務官 警務 員	長	
	港 悦子	事務補佐員	長	
	大西 和子	事務補佐員	長	
	福本 良子	事務補佐員	長	
	新宮 恵子	事務補佐員	長	
	巽 月子	事務補佐員	長	
	本中 宣代	事務補佐員	長	
	中川かよ子	事務補佐員	長	
	中垣 睦美	事務補佐員	長	
	西嶋 富美	事務補佐員	長	
	石川千恵子	研究補佐員	長	
	庶務課	松岡 進	文部事務官 課長	長
		津田富士夫	文部事務官 課長 補佐	長
小野 祐治		文部事務官 課長 補佐	長	
渡辺 康史		文部技官 専門 職員	長	
阪本 勇		文部技官 専門 職員	長	
新井 耕治		文部事務官 専門 職員	長	
新湯 淳史		文部事務官 経理 係	長	
岡本 安司		文部事務官 経理 係	長	
六戸 雅子		事務補佐員	長	
河村 京子		事務補佐員	長	
吉田 和子		事務補佐員	長	
小林 雅文		文部事務官 用度 係	長	
松本 正典		文部事務官 用度 係	長	
飯田 信男		文部技官 自動車運転 用度 係	長	
小坂由紀子		事務補佐員	長	
細井 雅子	事務補佐員	長		
阪本 勇	文部技官 施設係長(兼任)	長		
小園 秀彦	文部技官 施設 係	長		
橋元 敬子	事務補佐員	長		
建造物研究室	宮本長二郎	文部技官 室長	長	
	山岸 常人	文部技官 (併任)	長	
	浅川 滋男	文部技官 (併任)	長	
	鳥田 敏男	文部技官 (併任)	長	
	小野 健吉	文部技官 (併任)	長	
歴史研究室	田中 淡	調査員 (非常勤)	長	
	綾村 宏	文部技官 室長	長	
	小池 伸彦	文部技官 (併任)	長	
	森 公章	文部技官 (併任)	長	
	花谷 浩	文部技官 (併任)	長	
橋本 義則	文部技官 (併任)	長		
松井 章	文部技官 (併任)	長		
堀池 春峰	調査員 (非常勤)	長		

所属	氏名	官職	担当
平城事務所	町田 章	文部技官 部長	長
	金子 裕之	文部技官 室長	長
	小池 伸彦	文部技官	長
	森本 晋	文部技官	長
	毛利光俊彦	文部技官 室長	長
	玉田 芳英	文部技官	長
	杉山 洋	文部技官	長
	巽 淳一郎	文部技官 (併任)	長
	山崎 信二	文部技官 室長	長
	小澤 毅	文部技官	長
	佐川 正敏	文部技官 (併任)	長
	上野 邦一	文部技官 室長	長
	浅川 滋男	文部技官	長
	鳥田 敏男	文部技官	長
	松本 修自	文部技官 (併任)	長
	高瀬 要一	文部技官 室長	長
	小野 健吉	文部技官	長
	本中 真	文部技官 (併任)	長
	村岡 正	調査員 (非常勤)	長
	掘部	町田 章	文部技官 室長(事務取扱)
村上 隆		文部技官	長
森 公章		文部技官	長
渡邊 晃宏		文部技官	長
館野 和己		文部技官 (併任)	長
寺崎 保広		文部技官 (併任)	長
細見 啓三		文部技官 主任 研究官	長
巽 淳一郎		文部技官 主任 研究官	長
松本 修自		文部技官 主任 研究官	長
館野 和己		文部技官 主任 研究官	長
本中 真		文部技官 主任 研究官	長
寺崎 保広		文部技官 主任 研究官	長
佐川 正敏		文部技官 主任 研究官	長
西田 健三		文部事務官 事務総括(兼任)	長
森田 光治		文部事務官 (兼任)	長
岡田 博无	文部事務官 (兼任)	長	
佃 幹雄	文部技官 専門 職員	長	
井上 直夫	文部技官 専門 職員	長	
牛島 茂	文部技官 専門 職員	長	
吉村 司朗	技能補佐員	長	
飛鳥藤原宮跡発掘調査部	牛川 喜幸	文部技官 部長	長
	黒崎 直浩	文部技官 室長	長
	花谷 芳樹	文部技官 (併任)	長
	深澤 井上	文部技官 (併任)	長
	大岩永口	文部技官 室長	長
鵜 省三	文部技官 (併任)	長	
西口 寿生	文部技官 (併任)	長	

